

被災地域インフラ復旧プロセスデザイン

支援システムの構築

畑山満則

京都大学防災研究所

hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp

短期間に限定されたリソースで効果的な復旧活動を行うためには、時宜を得た選択が求められる。復旧期には、人命救助、避難所生活、仮設生活、事業継続、後発災害対策などいくつかの重要なフェーズがあり、災害の規模、発生した季節や地域の特性など様々な要因により、重要な活動は変化していく。この変化に、時宜をとらえて対応することが最適戦略につながると考えられるため、復旧プロセスのデザインが求められることとなる。さらに、復旧プロセスにおいて重要なことは、前述のフェーズに加えて復興デザインを考慮することである。つまり、点在する被災施設を元に戻すという時間軸上の点の扱いとなる事象と、復興を加速するという時間軸上で線の扱いとなる事象を、時宜に合わせて選択し、復旧スケジュールを構築していくことが本提案の目指すものということとなる。そこで、研究開発するシステムを「適応的インフラ復旧プロセスデザイン支援システム (Adaptive Infrastructure Recovery process design support system for Disaster Training on Digital Twin: AIR4DT)」とし、これを開発、社会実装することを本提案の目的とする。

キーワード：国難災害、インフラ復旧、復旧プロセス